

安全で安心して暮らせる災害に強いまちづくりを目指して

—三郷市消防本部—

三郷市は、埼玉県の東南端に位置し、都心から最近地点15km、最遠地点24km、地域の地形は低平にして殆ど高低なく、北より南に向かって僅かに低くなっている。東西距離5.6km、南北距離9.5km、市内面積は30.41km²。海拔は東京湾平均海水面より1mから3m程度となる。

西に中川（一級河川）、東に江戸川（一級河川）、南に小合溜井（貯水施設）と水に囲まれた土地で、北は吉川市、南は東京都葛飾区、東は千葉県流山市と松戸市、西は草加市と八潮市と接している。

地質は台地の河川が浸食するとともに、東京湾を運搬堆積物で埋めながら形成された上層部は軟弱な沖積層で、粘性土層と砂質土層が互層状を呈しており、腐植物、貝殻が混入している。

同市は、昭和47年5月3日市制を施行以来、昭和48年4月1日武蔵野線（国鉄）の開通、昭和60年1月23日常磐自動車道、首都高速足立・三郷線、平成4年11月27日東京外環自動車（三郷－和光間）の開通、平成17年のつくばエクスプレス線の開通等により近隣へのアクセスも充実しており、さらに平成17年に三郷インターA地区にイトーヨーカドー、スーパービバホームを中心とした大型店舗が、平成20年にはJR武蔵野線新三郷駅にIKEA、ららぽーと、コストコと商業施設がオープンし、県内外から多くの人が訪れるなど、各再開発事業などにより、目覚ましい発展を遂げ、人口も増加している（平成26年6月1日現在：総人口・13万6,062人、世帯数・5万8,098世帯）。

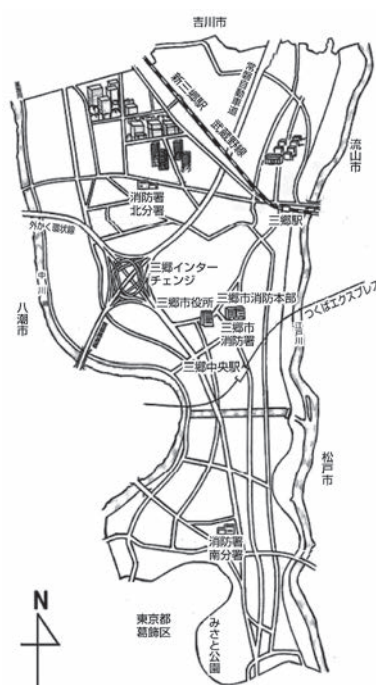


三郷市マスコットキャラクターは、「かいちゃん＆つぶちゃん」。平成21年2月1日に誕生。市の鳥である「かいつぶり」がモチーフ。今年で5周年を迎え様々なイベントで活躍している。



▲三郷市の位置

三郷市内▶



また、三郷市で知られるのが「みさと団地」（公団）、昭和48年頃に武蔵野線開業とほぼ同時期に建てられ

たこの大型団地は、ピーク時には約2万3千人を擁する国内有数のマンモス団地として知られ、現在も新築および増改築等を経て発展を遂げている。しかし、昭和48年当時より居住する住人の高齢化、様々な国の外国人入居者の増加など、コミュニティの様相も大きく変化してきている。

市内の施設等に目を向けると、芝生広場や大型の木製遊具、バーベキュー広場、展望台などがある県営みさと公園、春には桜で満開となり、夏にはプールで賑わう早稲田公園、約7haの芝生で覆われた多目的広場三郷スカイパークなど自然あふれる公園がたくさん整備され、さらに江戸川沿いには、片道約2時間の国内でも最大級の長距離サイクリングコースが整備されているほか、災害発生時に河川ルートで救援物資等を搬送・荷揚げするための施設「三郷緊急用船着場」が平成21年3月に整備（国土交通省）されている。普段は野鳥などの自然観察、季節折々の花が咲き誇る公園として、また、災害時には防災拠点としての重要な役割を担う施設として幅広い用途に活用されている。

今回は、三郷市消防本部を訪問し、南部正彦消防長に三郷市の消防行政の取組についてお話を伺った。

市民の安全と安心をめざして

本誌 三郷市消防本部についてお聞かせください。

南部正彦三郷市消防本部消防長 三郷市消防本部は、平成25年4月1日現在、消防本部は4課（消防総務課、予防課、警防課、指令課）、1消防署、2分署（南分署〈鷹野〉、北分署〈上彦川戸〉）、職員数は159人（うち女性は8人）で市民の安全安心を守っております。

昭和44年1月、三郷町消防本部を当時の三郷町役場内に設置し、職員15人、指令車1台、化学車1台で発足したのが始まりで、同年3月には現在の消防本部が設置されている大字幸房に消防庁舎が落成し、本格的な運用が始まりました。

その後、平成5年には現在使用している三郷市消防本部・防災総合庁舎が完成、さらに平成16年4月には、大きな組織改正を行い、現在に至ります。

当消防本部は「市民の安全と安心をめざして」の理念のもと、1. 時代に対応した人材の育成、1. 危機管理の徹底、1. 防火対象物及び住宅の安全対策の徹底、1. 応急手当の普及促進、1. 安全及び健康管理の推進の5つの指針を掲げ、三郷市の消防行政を行っております。

タブレット端末による病院検索を導入

本誌 それでは、貴消防本部の消防行政の取組についてお伺いします。まずは最近の救急の動向についてお聞かせください。

南部消防長 本市の救急の状況をお話ししますと、平

成25年の救急出場件数は6,319件で昨年の平成24年の6,067件と比べ、252件の増加となりました。

また、それにともなう搬送人員は504人で、24年の5,344人と比べ、160人の増加となりました。

当管内には国内有数のマンモス団地「みさと団地」があり、昭和40年代後半より

居住されております住民の方々が年齢を重ねてきたこともあり、団地からの搬送依頼も増えています。

幸い、当市は二次救急病院が3か所、三次救急病院の獨協医科大学病院が近くにありますが、さらに千葉県松戸市立病院、外環道を利用すれば川口市まで移動できますので、選択肢も多く、医療機関への受入れは比較的恵まれております。病院搬送の市内収容率は8割弱です。

本誌 救急に関する取組等をお聞かせください。

南部消防長 当消防本部では、本年4月よりタブレット端末（ipad air）を利用した「埼玉県広域災害救急医療情報システム」を導入し、運用しています。このシステムは、平成25年1月、県内で救急搬送された患者が、病院への受入れが困難な状況にあったため通報から約2時間半後に死亡したという事案があったことを教訓に、埼玉県が主導でリアルタイム病院検索ができるシステムを構築し、各市がタブレット端末を導入してそれぞれの消防本部の救急車へ設置したものです。

導入からまだ、間もないのですが実際に利用してい



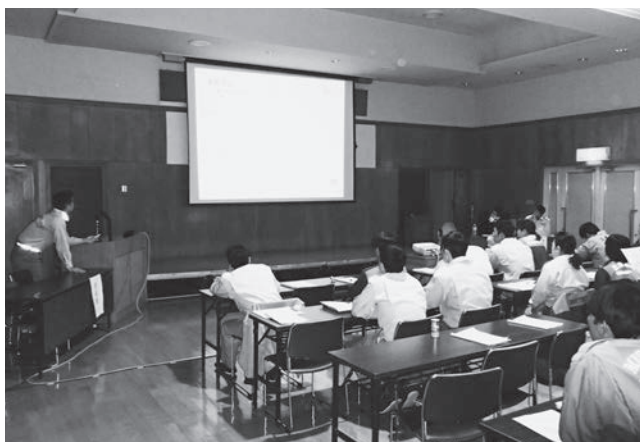
南部 正彦
三郷市消防本部消防長



三郷市消防本部庁舎



埼玉県広域災害救急医療情報システムを使用して病院検索



消防本部内で開催している救急業務に関する勉強会

る隊員から話を聞きますと、患者の症状・状況等による搬送先の病院の選択肢が増えた、他隊の活動状況が把握できることや、病院の収容状況・受け入れ状況が把握できるなどのメリットが出ている一方で、病院側の公開情報の内容の更新が少し時間が掛かることがあるなどの報告がありました。

また、このシステムは埼玉県全体の情報は把握できるのですが、私どもの消防本部のように、東京都や千葉県に接している地域では、他県の病院検索が出来ないこともあるため、今後少し工夫が必要な状況が出てくるのではないかと考えます。

また、このタブレット端末は、埼玉県広域災害救急医療情報システムの利用だけでなく、本市では20か国語以上の言語で作成された指差しで体の部位や症状などのコミュニケーションが出来るデータ（PDF）を職員が独自に端末内に設置し、日本語を話すことが困難な患者や付き添いの等の外国人の方の対応にも利用しています。

このデータは、今後も様々な意見を取り入れもっと



前列左から、矢口嘉伸消防総務課長、野本浩参事兼副署長、程田幸治消防署長、南部正彦消防長、豊田克美次長、椎名義明参事兼予防課長、戸井田稔指令課長。後列左から、山本隆警防課長、梅原和郎北分署長、細沼豊消防1課長、石崎孝司副参事兼課長補佐新井健夫消防2課長、互利之副参事兼課長補佐。

多くの方が利用できるよう更新を続けて参ります。

また、救急業務に関してですが、外傷事後検証、各種プロトコル、口頭指導等については、東部地域MC協議会（8消防本部参加・獨協医科大学越谷病院等）に定期的に参加して、救急業務の質の向上に務めております。さらに当消防本部では、本部内および近隣の消防本部と合同で独自に勉強会を開催し、様々な事案の検証や意見交換などを行っております。

7年未満の職員を対象に消防技術を伝承

本誌 消防・救助の動向はいかがでしょうか。

南部消防長 本市の火災の状況ですが、平成25年の火災件数は36件で、24年の56件に比べ20件減少しております。

当管内には、大型商業施設や大型倉庫などがありま



伝承訓練



伝承訓練

すが、徹底した指導のもと、訓練や火災予防の啓発を実施していることで、今のところ大きな火災は発生していません。

本市の救助ですが、平成25年の救助件数は66件で、24年の89件に比べ23件減少しております。

救助の件数の種別では自動車の事故による救助要請が多くみられます。大型商業施設を利用する方が、県外市外から来る際、不慣れな道があり、事故を起こされる場合があります。

本誌 消防や救助等の技術等の伝承はどのような形で行われておりますか。

南部消防長 私どもの消防本部でも、大量退職時期を迎え、経験豊富な技術を持った職員の退職が増え、それに伴う採用により、職員の若年化が進んでおります。当消防本部では、平成18年4月採用以降の7年未満の職員に対し、消防技術の伝承と職員間や所属間の技術の統一とレベルアップを目的に、昨年度から警防・救急・救助に関する合同訓練を実施しています。

訓練内容は、消防学校で実施する各専科教育に準拠し、入校前の基礎内容を中心に課程を組み立てており、主幹を中心に係長級が指導者となり専科教育受講者や救急救命士は助教として、訓練計画作成及び訓練指導を担当します。

各課程の到達目標ですが、**警防**は、消防ポンプ運用、三郷市災害活動マニュアルに準じた基本行動の遵守、**救急**は、適切な観察と処置・適切な資器材の取り扱い、**救助**では、基本知識・基本技術訓練を目標に実施され、各課程修了後には、この課程で習得した救急・救助・警防の様々な知識と技術を駆使し、人命救助と消火活動の**総合訓練**を実施し、各課程での習得状

況を検証します。この総合訓練を通して知識と技術の把握と、更なる問題点と課題を明確にし、今後の活動に役立てております。

さらに、今年度は**予防業務**に関する内容を新たに加える予定です。

また、昨年より現場対応に関する**活動基準**を新たに作成し、これまで職員各自が経験上得たノウハウを明文化しました。例えば火災時の放水体系の基本やP A連携での患者の観察方法など、それらの基本を元に新人職員が様々な応用および対応が出来るように活動基準と指導者の経験等をあわせ指導を行っています。

この取組では指導者側も「教える」という立場から、指導方法の勉強や工夫、消防の基本動作の見直しを確認するなど双方に相乗効果が表れております。さらにこの訓練では職員同士のコミュニケーションが活発に図られ、消防の「心の伝承」についても先輩から後輩へと受け継がれる大事な時間にもなっています。

命をつなぐ「川の消火基地」を設置

本誌 大規模災害等に対する訓練等はいかがですか。

南部消防長 本消防本部では、大規模災害等に対応するための訓練として、近隣の三市の消防本部と連携し毎年定期的に**緊急消防援助隊三市合同部隊訓練**を実施しています。これは、当市を含め草加市、八潮市の消防本部と合同で、様々な大規模災害を想定し、招集訓練、倒壊建物救出訓練、無線運用訓練等を盛り込み円滑に活動が出来る体制の確認を行っております。この訓練は三市がそれぞれ持ち回りで場所の提供や想定を組み実施しています。



緊急消防援助隊三市合同部隊訓練



埼玉県特別機動援助隊（埼玉SMART）合同訓練